

# 「未来を開発する」 よりよい車いすづくりをめざして

—株式会社オーエックスエンジニアリング—

職場  
ルポ

WORKSHOP  
REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



株式会社オーエックスエンジニアリング

〒265-0043 千葉県千葉市若葉区中田町2186-1  
TEL 043-228-0777 FAX 043-228-3334  
URL <http://www.oxgroup.co.jp>



石井重行会長

**外に出たくなるような車いすをつくりたい**

「車いす」と聞くと、読者の方々はどんな車いすを思い浮かべるだろうか？ 病院にあるがちりした車いす、お年寄りが乗った介護用の車いす、車いすマラソンで疾走する車いす……。

「外に出たくなるような、人にほめられるような車いすをつくりたい。ものづくりの側から、そういう社会参加ができればすばらしい」

オーエックスエンジニアリングの創業者、石井重行さんは考えた。企業から独立してオートバイショップを経営、モーターサイクル



山口高司社長

**スポーツ用車いすのトップメーカーに**

レースのライダー兼ジャーナリストとして活躍していた石井さんは一九八四年、ニューモデルの試乗中に転倒、脊髄を損傷して車いすに乗るようになった。当時、オーダーメイドの車いすを何台使用してもその機能・性能・デザインに飽き足らず、個人的プロジェクトとして車いすの製作を開始。八八年、株式会社オーエックスエンジニアリングを設立した。ドイツで開発された自動二輪車・自転車ショーの視察に出かけたとき、現地記者に自作の車いすを称賛されて、事業化を決意。九三年から本格的に車いす市場に参入した。

「未来を開発する」をモットーに、「ものづくり」の会社として、快適性とデザイン性を重視した車いすは数々のデザインコンテストに入賞、スポーツ用車いすに乗った選手たちはパラリンピックで活躍し、「オーエックス」の名は知られるようになった。今日では従業員約一〇〇名のオーエックスグループとして発展している。

株式会社オーエックスエンジニアリングは、千葉市中心部から東へ車で三〇分ほど離れた、みどり豊かな郊外にある。広報室長の川口幸治さんは、車いすの販

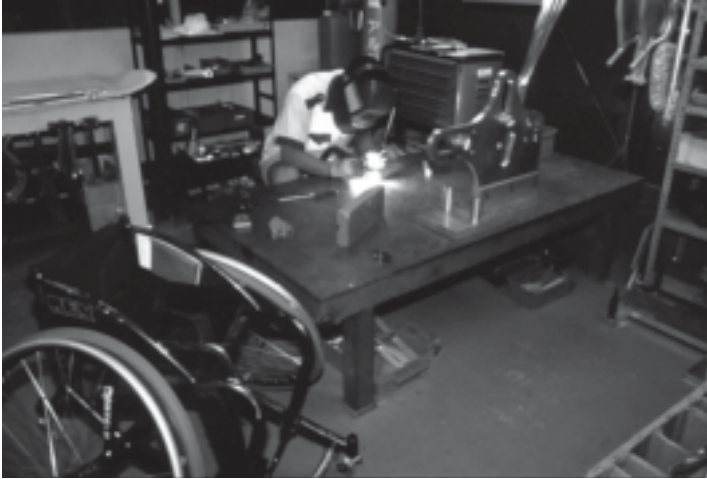
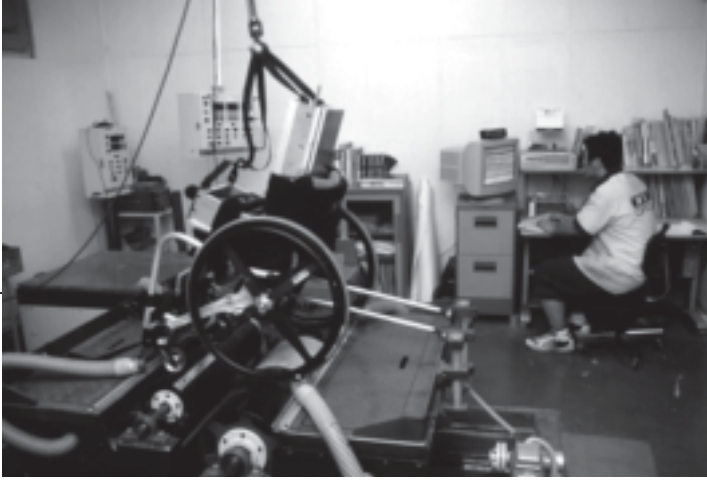
売を始めた九四年に入社した。自身も車いすを使う。

「当初販売していた車いすは、国産では高価で二二万円でした。車いすは日常生活用具給付の一〇万円前後の範囲内で購入すると言われていた時代ですから、障害者からお金をとるのかという反応もありました。MX101の車いすがたくさん賞をいただいた九五年ぐらいから販売台数が伸び始め、その後は順調にきています」

高くても、格好いい車いす……。オーエックスエンジニアリングの車いすは、テレビドラマ（ビューティフルライフ）にも登場した。ヒロインが乗った黄色の車いすには、「私も同じものを」という注文がたくさんきた。

「福祉用具のメーカーという意識はないんです。工業製品をつくっていて、それがたまたま車いすであるという意識でつくっています。福祉の給付の枠内を越えたものを販売していますが、いいものなのだから、それだけのお金はいただきますという姿勢です」

スポーツ用の車いすは、アトラクタ・パラリンピックの陸上競技で金・銀メダルを獲得、長野ではアイススレッジスピードレースで大活躍した。シドニーからオーエックスの製品を使う選手が増え、一個のメダルを、アテネでは二七人のサポート選手が一九個のメダルを獲得し



本社工場で研究開発が進む

た。スポーツ用は、短距離やマラソンなどの陸上とバスケットボールが中心で、土田和歌子つちだわかこさんが使う車いす（本誌七月号グラビア）もオーエックス製。オーエックスのサポートを受けられることは、「一流選手」という証でもある。

「陸上用の製品は、代表選手もほかの選手も同じようにつくっています。強い選手は体力もありますが、自分の車いすをどう改良すれば自分にいちばん合うかを知っています。代表選手と同じものなら、早く走れるというわけではありません」

選手が十分な力を発揮するには、一人ひとりの微妙な要求を汲み取る技術力が必要だ。

「長年培ったモーターサイクル・レーシングのテクノロジーが車いすの開発・製造に生きていますが、選手の要望に応えるには経験も必要です。いまはかなりわかるようになってきましたが、結局は『人』だと思っています。車いす業界で大きな会社ではありませんから、技術力で負けていたら、いまのオーエックスはなかったと思います」

スポーツ用車いすが目立っているが、年間販売台数約四〇〇〇台の八割は日常用車いすが占める。最新式のそれはスマートなデザインで、フレームはカラフルだ。マラソン用の車いすはものすごく軽く、いかにもスピードが出そうに見えた。

### 車いすの上司。 障害者≠弱者の発想はない

オーエックスエンジニアリングでは、二〇〇一年に「オーエックス新潟」を設立、日常用車いすの一貫生産を始めた。ここ五年間で急成長し、オーエックスグループの従業員は一〇〇名を超えた。

車いすの開発・実験・販売・サービスを行う「オーエックスエンジニアリング」で約四〇名、「オーエックス新潟」で約四〇名が働き、そのほかに車いす部品の

開発製造をする「エムアンドエム」、競技用車いす・スペシャルカスタム車の開発製造を行う「レブ」、車いす用の布・レザー製品の製造と東南アジアの営業拠点となるフィリピンの会社などがある。タイから迎えた研修生に車いすの修理技術を教え、現地での修理体制を整えてから、低価格で中古車いすの販売も始めた。

「障害者」は全員が車いすで、オーエックスエンジニアリングに八名、レブと新潟工場に二名ずついて、営業、広報、開発、事務などさまざまな仕事をしている。アテネ・パラリンピック車いすテニス男子ダブルスで金メダリストの斎田悟司さいたさとしさんは開発部、車いすフルマラソンの男子日本記録保持者の花岡伸和はなおかのぶかずさんは広報で働きながら、世界で活躍する。

「障害者への配慮は？」と聞かれても、何もしていませんから答えられないんです。車いすの人は何人？ と聞かれても、いつも意識していません。社長の山口もよく言うのですが、入社したときからトップが車いすでしたから、車いすの人が弱者ではなくて、強者でした。社内がそういう雰囲気ですから、車いすに乗っている人間も甘えがなくなり、それが当たり前になっていきます」

創業者の石井さんは二〇〇三年に会長に。設立以来、ともに仕事をしてきた山口高司やまぐちこうじさんがオーエックスエンジニアリング社長に就任した。



## WORKSHOP REPORT



(上) 本社広報室長として対応に忙しい川口幸治さん  
(下) 本社営業部長の大沼克彦さん



車いすフルマラソンの日本記録保持者で、アテネパラリンピック六位の花岡伸和さん。ホームページの作成、カタログの制作・管理を担当している



アテネパラリンピックで、車いすテニスのダブルスで金メダルを獲得した斎田悟司さんも車いすの製作を担当している

「障害者＝弱者」という発想はないですね。会社に入ったときから、車いすの社長に怒られるのがふつうでしたから。川口の部下は、川口が弱者だとは思っていません。本人が本当にできないことがあれば、誰かに頼めばいいし、できることは他人がやってくれば必要もないと思います。大事なことは、お互いがわかっていくことだと思います」

山口社長は、オートバイが好きで入社した。「途中で業種転換をしましたが、ものづくりという意味では同じです。うちは、ものづくりが好きな人間が集まっている会社です。創業者の前向きな思いを引き継いで、外に出たいという気持ちになれる車いすをつくっていききたいと思えます。」

十数名でスタートして、ここ一〇年ぐらいで売り上げも何倍に増えてきました。これからは会社の規模を大きくすることに走るのではなく、力をもった会社にしたいですね。お客さん

に夢や希望を与えられる商品とサービスを提供して、車いす以外にも新しい開発にチャレンジしていく会社でありたいと思っています」

川口さんの入社時も、会社が発展するかどうかは未知数だった。「石井自身が何でもやっていて、『若いお前たちにできないはずはない』と言われてましたから、社長に負けられないと思ってきました。石井は『常識にとらわれない。常識は強い者がつくったのだから、そこで勝負しても勝てない』とよく言いました。常識にとらわれないかぎり、オートエックスここにありという会社であり続けると思っています。そこが、仕事をしていて楽しい理由かもしれませんね」

### おしゃれなショールームがオープン

船橋市にある大型ショッピングセンター「TOKYO BAYららぽーと」WEST一階。今年のゴールデンウィークにしゃれたショップが一つ誕生した。黄色のイメージカラーを生かした空間に、日常用やスポーツ用、子ども用の車いすが並んだオートエックスのショールームだ。福祉機器というイメージはなく、周囲のファッションや雑貨、クッキーなどの店舗に違和感なく溶け込んでいる。個性的なスポーツショップのようで、体験





## WORKSHOP REPORT

本社で8年間営業をこなし、ららぽーと店開店と同時に、店長として活躍する古谷一臣さん

う。

「営業マンとしてではなく、同じスポーツをしている仲間としてのつながりがあるのはいいですね。プレーヤーとしての目線で見ることが商品にもフィードバックされていると思います」

古谷さんもアウトドアが好きで、陸上とチェアスキーをする。二人は、車いす



九州支店から転勤して、忙しい毎日をおくる清山洋一郎さん

の説明はもちろん、自動車の運転の仕方から車いす生活全般についての相談にものっている。

「ここは、いろいろなことが解決できる場でありたいし、車いすの調整の仕方など、お客さんの質を高める場でもありたいですね。」

日本にもオーエックスという優れたメーカーがあることを多くのお客さんに知ってほしいです。その人が将来、ケガをしたり、親に車いすが必要になったとき、ららぽーとにお店があったと、来ていただけるようにしたいと思います」

「ケガをした後、私がこれだけ大きく変わったのは、人との出会いがあったからです。今度は自分がそういうところでも力になればと思います。街に出たらどう感じるのか、日常生活、勉強、恋愛など、本当のところをお話したいと思います」

「二人のタイプが全然違うので、いいみたいですよ」というお二人は、紺のポロシャツに黒のズボン。ブルーのフレームの車いすの古谷さんは黒いスポーツシューズ、清山さんは赤のフレームに赤と白のコンビのスポーツシューズ。コーデイネットも決まっています、応対もとてもさわやか。

「ここに課せられた役割は大きいと思います。うまくいけば、全国展開も考えられますので、成功させなければという



プレッシャーはありますね」

「このショップが、車いすやさんというイメージがなくなっしてほしいです。車いすイコール障害者が使う乗り物だというイメージがなくなっしてほしいですね。病気や年をとったら、誰もが車いすのお世話になるかもしれません。ファッションの一つとして、個性が出せるアイテムとして、かっこいい靴があったよねと言うように、かっこいい車いすの会社があったよねと思ってもらえればうれしいですね」

「かっこいい」。それは世の中の意識を変えていく大きな力になると思う。